

---

# ワード×ワード

月猫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ワード×ワード

### 【コード】

N0533BA

### 【作者名】

月猫

### 【あらすじ】

小説を読もう！のトップページなどで表示されているキーワードを組み合わせて物語を作っていくのかなと思います。

暇つぶしのように更新していきます〜））

## ワード×ワードの説明

あらずじにも軽く書かせていただきましたが、これは小説を読もう！のトップページに表示されている『登録の多いキーワード』から適当に言葉を2つ抜粋して物語を作っていこうかなという小説です。短編集のような感じでそれぞれの話に共通点等はありませんので、ヒマなときに読んでいただくようなものです。

例)クリスマス×魔法

クリスマスを1人寂しく過ごす少女。そんな彼女を哀れんでか1人の魔法使いが現れた。

魔法使いは彼女に言います。

「クリスマスに年頃の娘が1人だなんて哀れな……。今日一日、私がああなたの望みをかなえてあげますよ。」  
最初は豪勢な食事や買い物を楽しんでいた彼女だが、最後のお願いはやっぱり……。

みたいな王道な話を書いたり……。  
まったりゆったりなくだらなくい話を書いてみたりします。

一応、文才力向上のために書いていたりしますので、アドバイスや感想等を頂けるとうれしいです(\*^\_^\*)

では、ごゆるりとお楽しみくださいませ。

## 猫×恋愛

我輩は猫である。

そんな偉そうな事を言いつつもりはないが、確かに私は猫である。名は・・・まだない。どこかの作品の真似のような自己紹介ではあるが、まあ、私についての紹介はこんなものでよからう。

「にゃーん・・・」

この鈴が鳴るような・・・、透き通るような心に響く声は・・・、この世の者とは思えぬほど可憐な・・・。

「にゃっ、にゃにゃにゃーッ！」

彼女こそ、我が麗しの姫・・・。

この辺りで一番の美人。人からも猫からも人気NO.1のアイドルキヤット、白猫のミルクちゃん!!!!

注意：ここからは猫語を日本語訳させていただきます。

「あら・・・、ごきげんよう。」

彼女の声を聞いた者は一瞬にして彼女の虜・・・。私とて例外ではない。

この辺りに来てすぐ彼女の声を聞き、もう彼女以外の女性メスは愛せない身体になってしまった。

人間達はよく『雄猫はよく発情している。』『雄猫なんて雌猫に振り回されている。』と言うけれど、それはお前たち人間のことだろう！と私は言っただけ。

人間のメスに好かれようと、必死になって狩ってきた獲物（高級品・食事 e t c . . .）をメスに渡しているじゃないか。いいところを見せようとしたり、他の雄と奪い合ったり . . . . 言ってることとやっていることが違うとはまさにこのことだろう。

こつち（猫界）のことはバカにしたように言うくせに、自分達の事は棚に上げて正当化する。

人間ってほんつとやな生き物！

おっと、話が逸れてしまった。とりあえず、これは発情だとかそういうものではないんだよ。

もつとこう . . . 情熱的なまるで詩のような . . . 『恋』なのだよ . . . .

「ごっつ、ごきげんよう！今日もまたお美しいですね、ミルクさん。」

所謂、遅めの初恋 . . . .

私だって男だ。女を愛したことも抱いたことも無論ある！だが、彼女のは違うのだ。今までの女達はただ肉欲に塗れていて、身体を満たすためだけのようない行為を毎年毎年繰り返しているようだったが、彼女は . . . なんととも言いがたい魅力があるのだよ . . . . そして、それは決して衰えることのない素晴らしいもの。熱して冷めてまた熱して . . . . のような今までのものとは明らかに違う。永遠に熱し続けるもの。

ああ . . . 素晴らしい . . . .

「うふふ . . . . ありがとう。」

ああ . . . . 笑い声もなんとも美しい。

その所作 . . . 振る舞い . . . どれをとっても一級のもの。本来、私のようなものがお目にかかるのさえ憚られるお方に私は今、しゃべりかけている。

まさに世紀の瞬間と言えよう……。

「では、さようなら。」

「はっ、はい！」

彼女は最後にニコリと笑って立ち去っていった。

まさに夢のようなお方だったなあ……。妙に急いでいたようだが……どこにいくのだろう。

普段は家の周りの少ないテリトリーしかお歩きにならないのに……。

……私の気付いてはいけなかった好奇心がウズウズと沸いてくる。

「……しかし、尾行だなんて……。そんなことをすれば男が廢る……。」

……仮に！ やったとして、もし彼女にバレたら……うう……しかし……！！！」

散々悩んだ結果。

私は彼女の後をつけてしまった。向かう先はどうやら少し入り組んだ住宅街の一角のようだ。

こんなところに彼女のような上品な人が何のようがあるのだろう……。

そーっと物陰から覗いてみると、そこには彼女と……と!?

「……ああ、ずっとお会いしたかったですよ。マル様……。」

「私だって……。ずっと貴女に会いたかった。愛しのミルク……。」

あれは・・・！！この住宅街1の美形！マルじゃないか！！  
猫界でも美形！人間界でも美形！今近所のおばさまから女子高生、  
幼稚園児までに人気のあいつが……。まさか・・・ミルクちゃん  
と・・・できてたなんて・・・。  
まあ・・・美男美女でお似合いのカップルではあるけれど・・・。  
やっぱり、ヤダよ・・・。  
俺の初恋なんだ・・・。それを・・・それを・・・。

「マル様・・・。」

「ミルク・・・。」

うわぁ・・・キスしだしたよ・・・。  
いくら人通りの少ない目立たない場所だからって、それはやりすぎ  
でしょう・・・お二人さん。  
もう・・・これは・・・あれだ・・・。  
・・・何も見なかったことにしよう・・・。

今日俺はミルクちゃんに会っていない。尾行なんてしていない。マ  
ルと会っていたなんて知らない。キスしてたなんて見てない。  
よしっ！！！！これでOK！！

注意：翻訳終了。

「おーい！！ダルウィン！」

・・・この声は・・・。

「あっ！いたいたダルウィン！やっと見つけたぞー！」

そうやって私を抱き上げるコノ人間は……。

「もう、飼い主である俺に黙ってどっか行くなよな！」

そう……私の飼い主。

そして、屈辱的ともいえる『ダルウィン』なんてダサい名前をつけた張本人でもある。全く！カッコいいと思ったのか何なのか知らないが、恥ずかしいんだよ！！

名前はやっぱり平凡が一番だよ……。人間も……。猫も……。

「今日のご飯はダルウィンの大好きな『モンプチ』だぞお。」

「にゃっ！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0533ba/>

---

ワード×ワード

2012年1月1日02時46分発行